

# 幼児を対象としたベースボール型ゲームにおける運動動作の獲得に

## 繋げる遊びの開発

～投能力、打能力に焦点を当てて～

坂本 武大 (山口大学)

### 1. 目的

現在、我が国では「野球離れ」が問題となっており、2011年度より「ベースボール型」が全国の小学校で必修化されたが、意欲的でない、あるいは苦手意識をもっている児童も多いと考えられる。そのような中で、就学前段階である幼児期から「ベースボール型」において特徴的な「投げる」、「打つ」に繋がる動作を身に付けておくことが、「ベースボール型」に親しむ第一歩になるのではないかと考える。

そこで本研究は、直接ボールを投げること、バットでボールを打つ形を多用しない様々な運動遊びを開発・実施することにより、年長児における投、打動作の獲得について検証することを目的とした。

### 2. 方法

直接ボールを投げること、バットでボールを打つ形を多用しない遊びを開発し、実施した。遊びは全7種類（巨大だるま落とし、フライングディスク、輪投げ、うちわ遊び、メンコ、フォームロケット、餅つき・餅まき遊び）で以上の順に実施した。



写真 遊びの例(左から巨大だるま落とし、輪投げ、餅つき遊び)

- 1) 対象者：年長児 5～6 歳 (男児 24 名、女児 17 名)
- 2) 調査期間：令和元年 10 月 28 日から 12 月 4 日
- 3) 測定内容：ソフトボール投げ、ティーバッティングの測定を介入前後に各 1 回実施した。
- 4) 分析方法：投、打動作を動画撮影し、1/10 秒ごとに静止画化したものを基に、投動作 7 項目、打動作 6 項目 3 段階の評価を行った。統計には、対応のある t 検定を用いて遊び介入前後のソフトボール投げの記録及び動作得点の比較検証を行った。

### 3. 結果と考察

ソフトボール投げにおいて、遊び介入による男児の伸び量は 1.0m で記録が高くなる傾向にあり、女児の伸び量は 0.9m で記録が有意に高くなった。投動作は、男女児ともに評価の総得点が有意に高くなり、部位別評価では、男児は【バックスイング】と【足の踏み出し】、女児は【足の踏み出し】で有意に得点が高くなった。打動作は、女児のみ評価の総得点が有意に高くなり、部位別評価では、男女児ともに【バックスイング】のみ有意に得点が高くなった。

#### 1) 投動作の向上について

実施した遊びの中でも「餅つき遊び」、「輪投げ」、「巨大だるま落とし」が有用であったと考えられる。「餅つき遊び」は軸足に加重し、反対側の足を踏み出す動作を含んでいるため、【足の踏み出し】の向上に繋がったと推察される。【バックスイング】の向上に関して、「輪投げ」において園児は遠く投げるために腕を後方へ引いて投げている姿が多く見受けられ、「餅つき遊び」では、杵を振りかぶる際に腕を後方へ大きく引く動作が、腕を後方に引いて投げる動作に繋がったと考えられる。

#### 2) 打動作の向上について

【バックスイング】の向上に関して、「巨大だるま落とし」、「餅つき遊び」が有用であったと考えられる。「巨大だるま落とし」の実施にあたって、園児は遊びを成功させるためにバットを後方へ大きく引き打つ姿が多くみられた。「餅つき遊び」は杵を振りかぶる際に腕を後方に引く動作が、打動作の向上にも繋がった可能性があると考えられる。

### 4. 結論

保育中の遊び時間の中で、年長児に対して投、打動作に関連した様々な運動遊びを行うことで、投、打動作に含まれる一部の動きを向上させることができた。その際、ボール操作を用いた運動を多くは行わなくても、基本的動作の習得が期待できる。